



## 新春のつどい

1月16日



講演を行う村瀬校長

1月16日11時よりクラブハウス会議室で行われた新春の集いは、尾道海技学院の村瀬校長先生による講演、それに続いて寿司と熱い吸い物でカンパニー。午後もしばらく停泊中の英国艇「サンストーン」のTom & Vickyさんによる14年間10万n/mのロングクルージングのお話がプロジェクターによる豊富な映像を使って行われ、延べ50名近くの参加者が、新しい年のスタートを楽しんだ。

### 1. 講演「瀬戸内海の安全なクルージング」

講師 尾道海技学院校長 村瀬氏

今中理事による講師紹介および村瀬校長による自己紹介によれば、同氏は昭和23年生まれ、尾道の向島ドックに14年間勤務ののち、尾道海技学院の職員となり25年、現在校長。同学院は、国の機関である商船高等が若い人を受け入れるのに対し、陸で働く成人で海への転身を目指す人を受け入れている。

#### 「講演要旨」

クルージングセラーにとって大切なことは、事前の幅広い情報収集と、それに基づく総合判断、また知識と技術を自己完結させることである。故野本先生と荒天時の対策として、ヒープツーカー、シーアンカーかで意見が分かれたことがあったが、実際にヒープツーカーをやってみると大変案であった。学院で理論を教えて資格を取らせても実践ではどうか。ギャップを感じたことがある。

瀬戸内海の特徴は、中国、四国山脈にはさまれ、温暖少雨、約1,000の島があつて潮流の変化が大きい。各地に昔からの潮待ちの港があり、古い文化が残っている。魚は豊富で美味しい。瀬戸内海をクルーズしたラッセル・クーツもその多島美を称えている。また、その恵まれた環境から日本にある5校の商船高等の内3校が瀬戸内海にある。

クルージング先として、中央北部にある無人島の加島があり、一時ウルトラプレーンの実習場になったこともある。その他、海の駅の大三島や多度津などがある。尾道では今年海のフェスタがあり、中央桟橋に3月には11のバースが完成予定である。その利用には事前に市商工課かロイヤルホテルに予約の必要がある。トンチンカンや万来軒などのラーメンの美味しい所もある。

ヨットの事故については人的要因が89%であり、その内、乗上げが30%になっている。原因としては海象、気象に対する不注意、水路調査不十分、見張り不十分、操船の不適切、機関扱いの不良、船位不確認などが挙げられる。

安全な航海のためには、国際的なスタンダードの知識と技術を習得し、自己完結を目指す必要がある。夫婦でクルーズすることを基本に作られているISP A-J\*のワークブックは良い指針となる。たとえば着岸についてはスキッパーとクルーの連携を保ちながら、クルーの判断でもやいを取るワンラインドッキングはお勧めである。(まとめ 吉田)

[註] International Sail & Power Association Japan

### 2. ヨット「SUNSTONE」Tom & Vickyさんによる記念講演

#### 世界を巡って10万マイル

TomさんとVickyさんは1972年に「ヨットに住む」ことを条件に結婚。以後お二人はヨットを拠点に社会生活をしながら英国の近場でレースやクルージングを行っていた。そして1981年に世界周航を視野に、現在のSUNSTONEを手に入れた。この艇はS&S設計、1965年英国で建造された木造ニス塗り、40フィートのセンターボード・スループで、船齢50年とは思われない、よく手入れをされた美しい艇である。

1997年お二人はそれぞれの大学学長や大学経済学部副部長の職を辞して、世界周航の旅に出ることを決心、以来14年、45カ国、800港を巡る10万マイルの大航海を経て、昨年11月淡輪に寄港されたものです。その間、ホーン岬回航とかシドニー・ホバートレース優勝などの輝かしい足跡も残しておられる。

その長い航海で撮り溜めた写真を基に、ドミンゴクルーの林さんの通訳で約2時間、お二人交代で世界各地のスライドを使いながら説明をしてもらった。本ページでは写真などの掲載に限りがあるので、SUNSTONEのホームページを見られることをお勧めする。

[[www.sunstonesailing.com](http://www.sunstonesailing.com)]

#### 【主な寄港先】

トバゴ、ニューヨーク、ハワイ、パナマ、タヒチ、N.Z.、タスマニア、ニューカレドニア、ハワイ、カナダ、アラスカ、メキシコ、マゼラン海峡、ケープホーン、オーストラリア、ブラジル、ケープタウン、グアム、淡輪、(今後アラスカ予定)

(吉田 記)



講演後の軽食パーティーの様子

#### バジの交換です



講演を聞き入るメンバー

# バリ島で帆船クルーズ 男ばっかの5人旅



うさぎ年が明けまして、今年は飛躍の年になれ・・・の願いを込めて、TWOTON、PUKUPUKU、THREE ISLAND、DAWN の面々5名が1月7日関空を飛び立った。目指すはバリ島。TWOTON 森さんコネクションの帆船クルーズ。オーナーは日本でも知る人ぞ知る、ガラス芸術家・鳥毛清喜氏。鉄木を使ってインドネシアで建造された70フィートの「GABE PUTIH」(白い唐辛子)。

初日はデンパサールから車で4時間の島の北西にある、タマンサリ バリ コテージ。

翌朝、鳥毛氏手作りのポンツーンに8:00集合。既に現地クルーが準備に大わらわ。マスト2本に、セール7枚は、ヨットと勝手が違います。8:45には、ムンジャガン島に向けて出航。一昨日は稀に見る大荒れだったとのことだが今日は打って変わって嘘のような好天。島を回りこんで、ブイに係留し、シュノーケリングであります。手付かずの海は、豊かな珊瑚の森。魚影の濃いことに唖然としました。船上ではもちろんバジの贈呈式。このバジは佐藤さんの手作りでシャキッとした中級品。

南国とはいえ、今は雨季。体冷えたところで、なんと海辺の温泉。ここで、降りだすスコール。

海に満喫のあとは、キンタマニー火山、美術館、モンキーの森、バリサファリパーク、有名なウブド宮殿、さらにはスーパーマーケット・・・と楽しさてんこ盛りの夢のような旅でした。

今回のバリ島内の旅のすべてのアレンジは、ライフアーティストの肩書きを持つマンデラ恵子さん。あえて写真は出ませんが、メチャベっぴんさん且つ美声。日本語・インドネシア語・英語のトリリンガル。彼女にメロメロのミッシーなんか、もうちょっと変。ノウハウ全開だしまくり状態。その夜はもちろん、バリダンス、ケチャダンス、さらにファイヤーダンス。すごい眼力は海老蔵もタジタジの迫力でした。

鳥毛さん、マンデラ恵子さん、新海さん、そして、優しく支えてくださったバリ島の皆様に感謝感激、テレマカシバニヤ!の旅でした。

住所: Desa Pemuteran. Gerokgak. Singaraja81155 Bali, INDONESIA

電話: 62-0361-7421165

ファックス: 62-0361-93264/94755

URL: <http://www.balitamansari.com/>



宿泊したコテージ  
南国のムード満点です

美しい帆船です。  
帆船に向かいます。



バジの贈呈式  
(右の白のTシャツ短パンが鳥毛オーナー)

バリ島内の観光です。



迫力のケチャックダンス

# 新春もちつき 1月16日



餅つきをする今中理事

1月16日に協会主催の新年行事が行われました。SUNSTONEのトムさんとベッキーさんも参加して大いに盛り上がりました。



お雑煮は3種類

ベッキーさん、もちつきに挑戦



ベッキーさんおもちをこねこね。トムさんはニコニコしながら見つめていました

メンバーもおもちを食べて盛り上がりました。



# 外国艇 越冬終え次々出港!



Sunstoneの送別会の様子

Sunstoneが出港しました。

2月13日に一応送別会を済ませましたが、その後もよほど淡輪が居心地良いのか、停泊を続けていましたが、3月5日午前6時過ぎ、名残りを惜しみながら姫路・木場港向け出港しました。

天候はちょっと気温は低かったですが、穏やかな半曇りで、明石海峡の連れ潮に乗るべく、機走で淡輪を後にしました。

いろいろと友好親善に努められた皆さん! お疲れ様でした。

また、パニスターは9日(木)に近場のクルージングに出て、月末に淡輪に帰り、改めて東京方面向け出港の予定です。

以上 (吉田記)



出港するSunstone

気をつけてね~!

BANNISTERが出港しました。

3月9日、瀬戸内海をあちこち訪ねて、月末には帰ってくる予定で出航したパニスターでしたが、このほどe-mailが入り、このまま瀬戸内海を西へ行き、日本海コースでアラスカへ向かうとのことです。一旦淡輪へ帰り、花見でもして改めて出港し、東日本経由でアラスカに向かう予定でしたが、東日本の寄港予定の各地マリナーが巨大津波で全滅し、この変更となったものです。ちゃんとしたお別れが出来ず、残念でしたね。(吉田)



淡輪ヨットクラブのバージは一時帰国の際にオランダに渡りました

Silver Thorneが出港しました。

シングルハンダー、マイケルさんの乗るアメリカ艇「シルバートーン」は、昨年7月18日来淡以来9か月余りの長期停泊に終わりを告げ、3月26日1300時、石垣島むけ出港しました。石垣まではポカポカの近藤さんが外洋の経験も積みたいと同乗しております。

長い間いろいろ接待に努められた皆様、お疲れ様でした。



出港準備中のSilver Thorne  
左は近藤さん

出港するSilver Thorne

気をつけてね!

## 今年も2月はスキーゲレンデ! OTYC スキー大好きAチーム



低気圧が太平洋側を通過し、日本列島が豪雪に覆われた2月11-13, 我がAチームは斑尾高原ロッジ ベルクラントに集結。総勢9名の予定が1名ピークを迎えたインフルエンザで8名とコンパクトチーム。平均年齢60歳にも関わらず、朝早くからゲレンデへ! 年長の森下先輩が全員の滑りをビデオ撮影。「カメラ撮られると緊張するなー」なんて言いながら若者に負けない滑り込み。夜はワインで乾杯! たらふくのごちそうの後はビデオ見ながらスキーの反省会兼講習会と向上意欲満点。ヨットもこれくらい熱心にやるべし。今年もスキーが更に上手になったシニアチームでした。



## 大阪ベイ淡輪ヨットクラブ

「東日本大震災義捐金(義援金)」の呼びかけ

2011年4月2日(金)  
大阪ベイ淡輪ヨットクラブ  
会長 市川 晴朗

未曾有の地震・津波の自然災害に加え、原発事故の恐怖。想像を超えた受難。亡くなられた方々を悼み、被災されたすべての方々の1日も早い物心共々の復興を心からお祈り申し上げます。

いまは既に津波に洗われ姿を消した漁港・マリーナも数多くあります。復興への道には大きな困難が横たわっています。

海を友とする我々 大阪ベイ淡輪ヨットクラブは、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、復興に少しでもお役に立てればとの願いにより、「東日本大震災義捐金」を募ってまいります。

何卒、クラブ員の皆様はもとより、同じく淡輪ヨットハーバーに集う皆様に広くご理解とご協力をお願いします。

- 1, 去る3月27日の第28回定期総会では10万円の義捐金拠出を承認いただくとともに、ご参集の皆様から多額の募金を賜りありがとうございました。その後も、続々募金にご協力をいただいています。
- 2, 4月17日(日)の「つつじレース」は1レースとし、レース終了後、「大震災復興支援 チャリティーオークション」を実施し、売上金の一部を、義捐金としますので、ご提供いただける品々のご準備を宜しくお願いします。(詳細は別途ご案内します。)

\* 当日参加できない方のために、クラブルームに義捐金ボックスを用意しますので上記行事にかかわらず、淡輪ヨットハーバーに集う全ての皆様にご協力の程よろしくをお願いします。